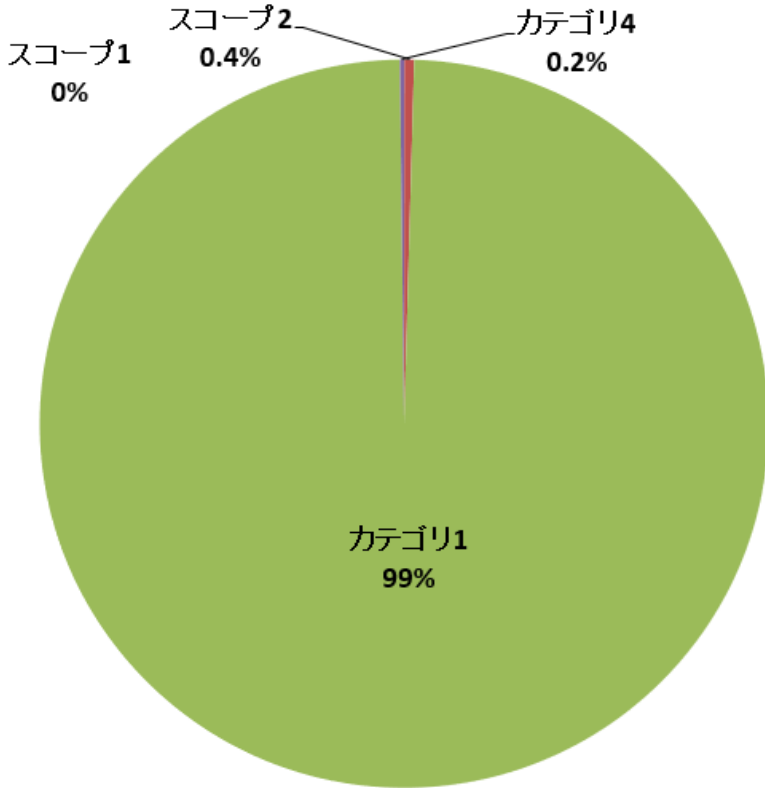


カルネコ株式会社

項目	内容
1.企業情報	● 業種：製造業 ● 事業概要：販促物の制作及び販売事業 ● 事業規模：資本金1.5億、拠点数3、従業員数30名
2.削減目標案	<Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標 2020年に2018年比で100%削減 (取り組みとして工場・オフィスの電力の再エネ化を推進、また2025年目標として、自社工場に太陽光発電と災害時に備えて充電設備を導入) <Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み> Scope3カテゴリ1: 2030年に2018年比で50%削減 (サプライヤーとの連携により、各社の再エネ電力使用の推進、用紙のリサイクル推進、社内外のテレビ会議やシステムによる合理化、ペーパーレス化、研究開発投資等に取り組む)

カルネコ株式会社

項目	内容												
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	● Scope 1・2・3の排出量の状況	● SCOPE1 : ● 1.1 [tCO2]											
	 <table><thead><tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr></thead><tbody><tr><td>カテゴリ1</td><td>99%</td></tr><tr><td>スコープ2</td><td>0.4%</td></tr><tr><td>カテゴリ4</td><td>0.2%</td></tr><tr><td>スコープ1</td><td>0%</td></tr></tbody></table>	Category	Percentage	カテゴリ1	99%	スコープ2	0.4%	カテゴリ4	0.2%	スコープ1	0%	● SCOPE2 : ● 34 [tCO2]	
		Category	Percentage										
カテゴリ1	99%												
スコープ2	0.4%												
カテゴリ4	0.2%												
スコープ1	0%												
		● SCOPE3 ● 7919 [tCO2]											

カルネコ株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	● 将来的に原材料調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れが投資引上げにつながることも懸念される ● 主要顧客はESGに積極的であり、サプライヤーに対しても、今後GHGの削減要請が高まることが想定される ● 自社やサプライヤーの省エネ活動の促進や、安価な再エネの導入によって、エネルギーコストの削減が実現できれば、生産や調達コストの削減につながる可能性がある ● 自社のカーボン・オフセット製品の普及が促進される可能性や、率先して自社が対策に取り組むことによる外部企業評価の向上が期待される
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標の策定を計画。この目標が1.5度目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している ● SBT取得により、顧客や投資家からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待する

カルネコ株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	● 環境政策グループで目標案を検討、経営会議で社内コンセンサスを得た上で、SBTイニシアチブへ提出。各部門別に温暖化のリスクと機会を検討し、野心的な全社目標の必要性を共有する ● 目標の実現可能性について2030年時点の事業や社会環境の変化はやや不透明な部分はあるが、社会的要請に応じてバックキャストで目標を設定するという方針で目標を設定
7.今後の課題	● Scope2の削減において、オフィスの再エネ電力化をテナントとしてビル管理事務所に提案 ● Scope3のカテゴリ1の削減目標の達成のために、サプライヤーとの協働と進捗を管理するためのデータの収集が課題